

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	南部公民館運営管理事業							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	生涯学習係	評価票作成者	生涯学習担当係長 奥村幸成
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	生涯学習の推進	コード	4 1 1
	項				単位施策(中)	生涯学習の拠点整備	コード	4 1 1 1
		生涯学習の推進			単位施策(小)	南部公民館の利用促進	コード	4 1 1 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	生涯学習活動に関心とニーズを持つ市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	市民のニーズに対応した生涯学習機会を提供することにより、南部公民館の利用促進を図る。			
1-5 事務事業の内容	多様化するニーズに対応した生涯学習機会を提供するため、平日の夜に講座を開講するなどして、南部公民館の利用促進していく。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	市民のニーズに対応した講座を検討した。	市民が生涯学習講座に参加できる機会を増やし、公民館の利用を促進する。		市民意識調査で市民の学習意欲への高さがうかがえ、公民館講座を夜間に開催を希望する市民が増えている。	
	平成19年度	サークル講座を中心として、講座回数を増やした。	地域社会の教育力の向上が重要性を増し、今まで以上に地域の拠点として、公民館活動の充実を図る必要がある。		新規講座への講座応募は多く、行政側が把握しきれていない学習に対する要望は多い。	
	平成20年度	市民のニーズに対応した講座を検討した。	"		託児を実施するようになったことで、若い世代のお母さんの参加が増えた。講座受講者のアンケートで、託児を希望する意見が増えてきた。	
	平成21年度	南部公民館全体の空調設備更新について優先順位を検討し、予算の削減に努めた。	南部公民館が建設されてから既に22年が経過し、空調設備等が古くなり、地域の拠点となる公民館の改修が必要である。		公民館を利用しサークル活動を通して、学習活動している市民が増えている。	
	平成22年度	南部公民館全体の空調設備更新について優先順位を検討し、予算の削減に努めた。				
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	南部公民館の利用件数(件)			1,080(件)	1,150(件)	2004年の利用件数が1,010件。公民館サークル、市外利用者等が活動の場として利用してもらえる件数を5年間で7ポイント程度高め、2015年までには合計14ポイント程度利用件数を高める目標を設定した。				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単)	1,006(件)	1,099(件)	1,000(件)	1,087(件)	1,511(件)					
	直接事業費 b(千円)	13,314	12,941	12,568	12,451	13,515					
	人件費 c(千円)	3,351	6,673	6,624	3,229	3,133					
	合計コスト d(b+c)(千円)	16,665	19,614	19,192	15,680	16,648					
単位コスト d/a(千円)	1件当たり 17	1件当たり 18	当たり 19	当たり 14	当たり 11	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、公民館の清掃・管理等委託料・空調設備更新工事費・電話設備購入費である。人件費は係担当の年度内の関わり(事務分担表と実績)から0.5人として22年度は算定した。(マニュアルによる人件費6,266千円)

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(件)		1,006	1,099	1,000	1,087	1,511					
後期目標値に対する達成度(%)		87.4	95.6	87.0	94.5	131.4					

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	市民の参加意欲に主眼を置き、ニーズに対応した講座を検討	夜間に開催することにより、生涯学習への参加者が増加し、公民館の利用促進を図ることができる。	講座の開催内容によっては幅広い年代層が参加できた。
平成19年度	市民が自主的に講座を開講、又は関わっていくことが大切である。	講座内容を充実するとともに講座回数を増やす。	愛知県埋蔵文化センターの埋蔵品展示会の会場として使用し、公民館利用の幅を広げることができた。
平成20年度	市民の参加意欲に主眼を置き、ニーズに対応した講座を検討。	講座内容を充実するとともに託児付の講座を増やす。	施設予約システムを導入したことにより、インターネットで公民館の予約ができるようになった。
平成21年度	"	"	施設予約システムを導入したことにより、インターネットで公民館の予約及び、予約状況が確認できるようになった。
平成22年度	市民の参加意欲に主眼を置き、ニーズに対応した講座を検討。また講座内容を充実するとともに託児付の講座を増やす。		
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		